

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 千葉大学

## 【構想の名称】(タイプB-II)

大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)

## 【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

### ○ 目的

- ① 日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ② 学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③ 米国+欧州+日本の3つの異なる機関でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習

### ○ 人材像

「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### ○ 6つの質の保証

- ① 学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ② 大学院で実施している英語によるプロジェクトベースラーニングを学部2年生後期より導入 実践的な教育を実施
- ③ 日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施し日本のデザインの独自性について理解を深める
- ④ 留学直前に行うプレゼンテーションを中心とした英語の授業でディスカッションに強い人材を育成
- ⑤ 卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥ 留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

### ○ 質の保証を伴った大学間交流の枠組

各国のデザイン事情を反映した全く異なる質の高いデザイン教育をバインドしプログラムを実行  
 図左側 イギリス・欧州において「デザイン振興=デザインをさまざまな対象に適用すること」を学習  
 図右側 米国において「企業におけるデザインマネジメントとしてデザインの資産的価値とその活用法」を学習  
 図中央 千葉大学で「創造型産業に重要なサービスデザインとしてデザイン技術」を学習 ハード+ソフトのデザインを学習

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 教育内容の可視化

学務に長けた専門秘書(アマヌエンシス)による学生への留学に関するインストラクションを学部の1年生から積極的に実施  
 教員の行う授業を専門的な知識として理解し授業取得を提案 新たな授業科目の立案等も提案

### ○ 成果の普及

学内外に広く学部3.5年(早期卒業)+修士2.5年(6ヵ月×2大学留学+1.5年研究)のプログラムを普及展開

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 派遣・受入の環境

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」をインターナショナルサポートデスクとアマヌエンシスが機能を分担しながら連携  
 日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =インターナショナルサポートデスク  
 専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマヌエンシス

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

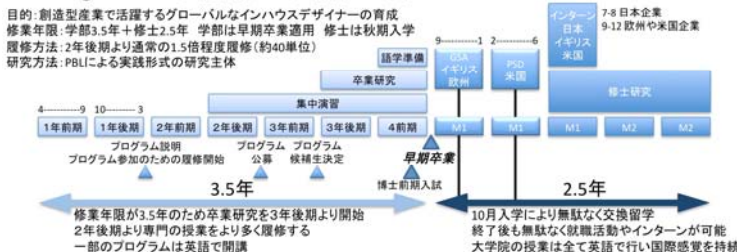
### ○ 日本人学生の派遣

ワークショップ参加による留学疑似体験を実施  
 留学に関する旅費および滞在施設の補助・インターナショナルサポートデスクによるきめ細かい留学支援

### ○ 外国人留学生の受入れ

日本開催のワークショップによる留学疑似体験を実施  
 留学に関する旅費の支援  
 日本滞在における設備(留学生寮を含む)を提供  
 インターナショナルサポートデスクによるきめ細かい支援

CODE Program B7M5 大陸間デザイン教育プログラム



履修予定単位: 学部: 124単位 通常単位 修士: 40単位 欧州10単位・米国10単位・日本20単位 (通常プラス10単位)

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3	4	5	5	5
学生の受入	2	8	10	10	10

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 千葉大学

## 【構想の名称】(タイプB-II)

大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③米国+欧州+日本の3つの異なる機関でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習  
「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

## 【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 6つの質の保証

- ① 学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ② 大学院実施の英語によるプロジェクトベースドラーニングを学部2年生後期より導入  
企業と連携したプロジェクトベースドラーニングで実践的な教育を実施
- ③ 日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施  
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④ 留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤ 卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥ 留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

(国際プログラム会議とワークショップ)



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(ワークショップのレポートとカリキュラム概要等)



### ○ カリキュラム構築のための国際会議の実施

平成24年(2012年)9月より実施する国際プログラムに関する会議を実施  
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどの構築で合意

### ○ 4回のワークショップを実施 日本で3つ ヘルシンキで1つ

ヘルスケアの未来(禁煙プロジェクト)(ヘルシンキ)  
K12エデュケーション・プログラム、ファーム・タウン、防災システムデザインの3つのワークショップを実施

### ○ 留学準備授業の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業

イモーショナル・デザイン、デザインシンキングなどの4つの英語による演習を実施  
ブリティッシュカルチャー、エンジニアリングなどのコミュニケーションスキル授業実施

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

パイロットプログラム 大学院学生2名(6ヶ月×2機関)、1名(6ヶ月×2回目)、学部4年生-大学院1名(12ヵ月×1機関)  
留学推進のワークショップ実施 2年生2名、3年生2名、4年生2名をMEDESワークショップ(ヘルシンキ)に派遣

### ○ 外国人留学生の受入れ

パイロットプログラム 学部2名(1セメスター×2機関)  
留学推進のワークショップ実施  
米国6名、英国6名、フランス6名、イタリア6名

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	4	4	5	5	5
学生の受入	2	6	10	10	10

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

(注)H23は実績、H24以降は計画。

### ○ 派遣・受入の環境

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」を国際サポートデスクとアマエンスが機能を分担しながら連携  
日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =国際サポートデスク  
専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマエンス

### ○ 外部と連携した宿泊・渡航および安全管理システムの構築

国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括管理システムの構築 危機管理に関する包括提携=OSSMA

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを2カ国語で作成 ワークショップに関する国際サポートデスク  
プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのビデオデータベース化を予定  
[http://www.design-cu.jp/code\\_web](http://www.design-cu.jp/code_web)



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 千葉大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

大陸間デザイン教育プログラム (CODE Program)

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③米国+欧州+日本の3つの異なる機関でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習  
「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

## 【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈国際プログラム会議とワークショップ〉

### ○ 6つの質の保証

- ① 学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ② 大学院実施の英語によるプロジェクトベースドラーニングを学部2年生後期より導入  
企業と連携したプロジェクトベースドラーニングで実践的な教育を実施
- ③ 日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施  
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④ 留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤ 卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥ 留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ワークショップのレポートとカリキュラム概要等〉

### ○ 国際プログラムと連携カリキュラムの実施

平成24年(2012年)9月より国際プログラムを実施 成果発表会を12月に実施  
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどを展開

### ○ ワークショップ8回実施(24年度) 日本4回 ローマ・ケルン・グラスゴー・NY

ユビキタス・サービス・システムの国際プログラムWS(連携カリキュラム)  
里山ツーリズムの提案、旅行者のためのユビキタスサービスデザイン、エコロジーとサービスサイエンス、都市デザインシステム など

○ 留学準備授業の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業  
イモーショナル・デザイン、デザインシンキングなどの8つの英語による演習を実施  
ブリティッシュカルチャー、エンジニアリングなどのコミュニケーションスキル授業実施



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成24年度パロットプログラム 学部4年(大学院進学)3名(6ヵ月×2機関)、大学院生(博士前期課程)4名  
留学推進のワークショップ実施 2年生4名、3年生6名、4年生10名、大学院生4名を海外でのワークショップに派遣

### ○ 外国人留学生の受入れ

パロットプログラム13名(1 Semester 11名、1年間2名)  
留学推進のワークショップ実施  
23名(米国、英国、フィンランド、ドイツ)

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	9	31	27	25	19
学生の受入	25	36	28	32	26

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

### ○ 派遣・受入の環境

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」をインターナショナルサポートデスクとアマヌエンシスが機能を分担しながら連携  
日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =インターナショナルサポートデスク  
専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマヌエンシス

### ○ 外部と連携した宿泊・渡航および安全管理システムの構築

国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括管理システムの構築 危機管理に関する包括提携=OSSMA

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを2か国語で作成 ワークショップに関するインターナショナルレポートを作成  
プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのビデオデータベース化 モバイル対応のホームページも構築  
[http://www.design-cu.jp/code\\_web/](http://www.design-cu.jp/code_web/)

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 千葉大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

大陸間デザイン教育プログラム[CODE Program]

【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
  - ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
  - ③米国+欧州+日本の3つの異なる期間でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習
- 「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」—日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

【構想の概要】

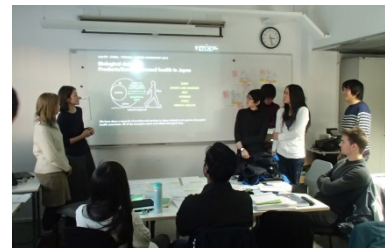
本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 6つの質の保証

- ①学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ②大学院実施の英語によるプロジェクトベースドラニングを学部2年生後期より導入  
企業と連携したプロジェクトベースドラニングで実践的な教育を実施
- ③日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施  
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

(国際協働ワークショップ)



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

◀ワークショップのレポートとカリキュラム概要等



### ○ 国際プログラムと連携カリキュラムの実施

国際プログラムを各年に実施 9月に開始して12月に成果発表会を行う  
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどを展開

### ○ ワークショップ13回実施(平成25年度)日本6回(6校)、海外7回(7校)

地域を活性化するサービスデザイン国際プログラムWS(連携カリキュラム)、里山ツーリズムの提案、未来のウェアラブル機器、新しいサウンド体験デザインと機器提案、手描きツールの可能性と進化、ヘルスケアの快適さの向上、被災地の子どもの安全、ソーシャルハウジングなど

○ 留学授業準備の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業  
パッケージデザイン、レストランサービスデザインなどの8つの英語による演習を実施  
ジャパニーズカルチャー、アート&メディアなどのコミュニケーションスキル授業実施

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成25年度 パイロットプログラム 学部4年(大学院進学)4名(6ヵ月×2機関)、大学院生8名  
留学推進のワークショップ実施 学部2年生5名、3年生17名、4年生6名、大学院生14名を海外でのワークショップに派遣

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成25年度 パイロットプログラム16名  
留学推進のワークショップ実施 41名(米国、英国、ドイツ、フランス、イタリア、フィンランド)を受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	9	31	54	25	19
学生の受入	25	36	57	32	26

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」を国際サポートデスクとアマヌエンシスが機能を分担しながら連携  
 日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 = 国際サポートデスク  
 専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 = アマヌエンシス  
 国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括安全管理システムの構築し、危機管理に関する包括提携(OSSMA)を運用する  
 海外連携大学を拡大した 平成24年度追加4校(米国、イタリア、ドイツ、ポルトガル)、平成25年度追加1校(フィンランド)

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを2カ国語で作成 ワークショップに関する国際サポートデスクを作成  
 プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのデータベース化 モバイル対応のホームページを構築  
[http://www.design-cu.jp/code\\_web/](http://www.design-cu.jp/code_web/)



# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 千葉大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

大陸間デザイン教育プログラム[CODE Program]

【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
  - ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
  - ③米国+欧州+日本の3つの異なる期間でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習
- 「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 6つの質の保証

- ①学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ②大学院実施の英語によるプロジェクトベースラーニングを学部2年生後期より導入  
企業と連携したプロジェクトベースラーニングで実践的な教育を実施
- ③日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施  
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

〈国際協働ワークショップ〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(ワークショップのレポートとカリキュラム概要等)

### ○ 国際プログラムと連携カリキュラムの実施

国際プログラムを各年に実施 9月に開始して12月に成果発表会を行う  
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどを展開

### ○ 海外大学アライアンスプログラム(ワークショップ)9回実施(平成26年度)日本5回(5校)、海外4回(4校)

IoT/M2Mを活用したソーシャルイノベーション(連携カリキュラム)、パリ地下鉄における利用経験の向上、IoTを活用したウェアラブル機器の提案、未来の自動車利用の楽しみ方、次世代の写真とカメラの利用体験、金属加工の可能性を探る生活用品など

### ○ 留学授業準備の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業

パッケージデザイン、レストランサービスデザインなどの21の英語による演習を実施  
ジャパニーズカルチャー、アート&メディアなどのコミュニケーションスキル授業実施

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成26年度パイロットプログラム 学部4年(大学院進学)4名(うち3名1 Semester×2機関)、大学院生4名(うち1名1 Semester×2機関)

留学推進のワークショップ実施 学部2年生2名、3年生12名、4年生1名、大学院生8名を海外でのワークショップに派遣

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成26年度パイロットプログラム13名

留学推進のワークショップ実施 29名(米国、英国、イタリア、ポルトガル、フィンランド)を受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	9	31	54	31	20
学生の受入	25	36	57	42	28

注)H23~H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」を国際ナショナルサポートデスクとアマヌエンシスが機能を分担しながら連携  
日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =国際ナショナルサポートデスク

専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマヌエンシス

国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括安全管理システムの構築し、危機管理に関する包括提携(OSSMA)を運用する

海外連携大学を拡大した 平成23年度追加1校(イタリア)、平成24年度追加3校(米国、ドイツ、ポルトガル)、平成25年度追加2校(フィンランド、フランス)、平成26年度追加1校(フランス)

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

### ○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを作成 ワークショップに関する国際ナショナルレポートを作成  
プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのデータベース化 モバイル対応のホームページを構築  
[http://www.design-cu.jp/code\\_web/](http://www.design-cu.jp/code_web/)

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 千葉大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

大陸間デザイン教育プログラム[CODE Program]

【プログラムの目的・養成する人材像】

- ①日本の未来を担う創造型産業(情報系製造業・コンテンツ産業)におけるデザインビジネスマインドを持つ人材の育成
- ②学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6ヵ月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラム
- ③米国+欧州+日本の3つの異なる期間でデザイン経営+デザイン振興+デザイン技術を学習  
「デザインビジネスマインドをもった幹部人材」-日本企業のデザイン部門の幹部候補であり、ビジネスに貢献するデザインをグローバルに考えられるプロフェッショナル人材の育成

【構想の概要】

本構想は、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、世界に通用するグローバルなデザイナーを育成するものである。未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 6つの質の保証

- ①学部入学時から留学を意識させ英語による専門教育を2年生より導入
- ②大学院実施の英語によるプロジェクトベースドラーニングを学部2年生後期より導入  
企業と連携したプロジェクトベースドラーニングで実践的な教育を実施
- ③日本のデザインの現状を学ぶ特別授業を留学前と後に実施  
日本デザイン振興会と連携し日本のデザインの独自性について理解を深める授業を実施
- ④留学直前にプレゼンテーション中心の英語授業を行いディスカッションに強い人材を育成
- ⑤卒業研究と修士研究を継続させ留学中も研究を継続実行
- ⑥留学終了時期にインターンシップを組み込み海外国内の両方を視野に入れたインターンシップを大学がフォローしながら実行

〈国際協働ワークショップ〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ワークショップのレポートとカリキュラム概要等〉



### ○ 国際プログラムと連携カリキュラムの実施

国際プログラムを各年に実施 9月に開始して12月に成果発表会を行う  
通常カリキュラム・特別カリキュラム・コンペティションカリキュラムなどを展開

### ○ 海外大学アライアンスプログラム(ワークショップ)8回実施(平成27年度)日本4回(のべ5校)、海外4回(4校)

IoTを活用した地域活性イノベーション(連携カリキュラム)、未来のアウトドアギア、食・ドローン・シェアリングエコノミーのデザインリサーチ、ハイテック・マスク、オリンピックの記憶を継承するためのデザイン、エコ뮤ゼに向けた地域コミュニティ活性化など

### ○ 留学授業準備の実施 英語によるデザイン演習 コミュニケーションスキル授業

パッケージデザイン、レストランサービスデザインなどの16の英語による演習を実施  
ジャパニーズカルチャー、アート&メディアなどのコミュニケーションスキル授業実施

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成27年度パイロットプログラム 学部4年(大学院進学)6名(1 Semester×2機関)、大学院生1名

留学推進のワークショップ実施 学部2年生1名、3年生7名、4年生5名、大学院生11名を海外でのワークショップに派遣

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成27年度パイロットプログラム12名

留学推進のワークショップ実施 32名(米国、英国、フランス、ドイツ)を受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	9	35	54	31	31
学生の受入	25	36	57	43	44

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

派遣・受入に対する「ワンストップサービス」を国際サポートデスクとアマエンスが機能を分担しながら連携  
日常生活と日本語・日本文化・ビジネス日本語 =国際サポートデスク

専門教育や研究体制の支援とインターンシップや就職支援 =アマエンス

国内宿泊・海外宿泊施設および学生渡航手続きに関する一括安全管理システムの構築し、危機管理に関する包括提携(OSSMA)を運用する

海外連携大学を拡大した 平成23年度追加1校(イタリア)、平成24年度追加3校(米国、ドイツ、ポルトガル)、平成25年度追加2校(フィンランド、フランス)、平成26年度追加1校(フランス)

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

### ○ 留学推進のための教育内容の可視化と成果普及のための広報実施

カリキュラムの構造を明記したパンフレットを作成 ワークショップに関する国際サポートデスク

プログラムに関するホームページを作成し全てのカリキュラムのデータベース化 モバイル対応のホームページを構築

[http://www.design-cu.jp/code\\_web/](http://www.design-cu.jp/code_web/)